

星屑

1999
January
No. 286

謹賀新年



しし座流星群観測記録特集号

しし座流星群の流星
撮影 中尾富作氏

熊本県民天文台

今年も楽しく星の世界へ

艶島 敬昭

昨年(1998年)は、バブル崩壊後の不況と、金融不安、大企業のリストラなど、巷では話題に事欠きませんでしたね。

天文界では、11月のしし座流星群の極大直前にマスコミが大きく報道したので、大勢の流星ファンが「観測好適地」とされた場所や公開天文台に殺到する現象がありました。

熊本市の東にある阿蘇外輪の一角＝俵山には、大勢の熊本市民が詰めかけ、道路は渋滞、俵山への登山口にあたる西原村では、沿線のコンビニで食品類(スナック菓子など)の棚が空っぽになるほど賑わい、突然降ってわいた深夜の喧噪にお店の方もびっくりされたと聞いています。



無事にしし座流星観測会を終わって、万歳！

このような天文現象への興味の高まりはとても大切なことではないでしょうか？ こんな機会に、少しでも役立つ天文知識を普及して、星空を楽しむ人々の増加と定着をはかりたいものです。そうして、建築物の照明や街灯などの余分

な明かりを減らし、星空を楽しめる環境を保全できるよう、声を合わせて行動を起こしていきたいものです。

昨年、天文台での私の活動は、ほとんどが「電子紙芝居」に関係するものでした。この「電子紙芝居」は、一昨年の城南町天体観測教室での、「わかりやすく楽しめる天文解説」を「自前で手軽に製作したい」という願いに、確かな答えを出してくれているようです。



「電子紙芝居」で楽しく解説

つまり、天文ファンの層がグッと広がり、天文関連知識の豊富なマニアばかりでなく、多様な人々が天体に興味を持つようになっている今、県民天文台での一般公開中、「言葉」だけの解説には大きな限界を感じていました。なかなか「共通語」を持たない状況だと思うのです。しかも、観測(観望)室はできるだけ暗い状態に保てたいので、印刷物に頼ることも困難です。(そういえば、数年前、蓄光テープを使っ

て、光る星図をこつこつと製作して、大勢のお客さんを楽しませてくれた運営委員がいましたね！)

それと同じように、質問の多い事項への説明や、自分が一番好きな星座物語、好きな天体の解説などを、パソコンでアニメ風に作ってみました。



それを元に雑談をして

いる時、ある運営委員のちょっとした一言が大きなヒントになりました。その場で「しし座流星雨」の出現シーンを試しに作ってみたら、これが結構うまくいって、流星雨らしく見えたのです。また、それを見て、いろんなアドバイスを下さる会員・運営委員の方々、そして、ストレートに反応して下さる来台者の方々(子供からお年寄りまで)のおかげで、手直しや改良が加えられ、私の運営当番日(日曜日)の出し物として定着しました。

また、時々(来台者の多い土曜日や、団体の観望日、外部の観望会など)呼びがかかって、「電子紙芝居」を楽しんでいただいています。



す。

当初は絵が下手で、「誰か絵の上手な人に描いてもらったら？」と同情

(?)されたものですが、2作目、3作目と進むにつれ「今度は、ちーっとは ましぱい」と誉めて(?)もらえるようになりました。タブーだっ

た美人画にもアンドロメダの物語で取り組み、無事に制作終了できてホッとしたりもしました。

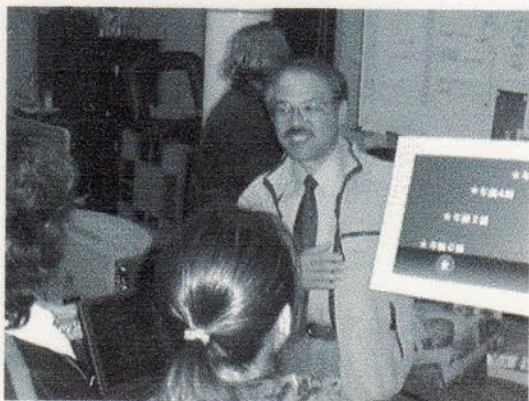
いまは、たくさんの星座物語の本を読みながら、自分にピッタリのちょっと楽しいお話を探しています。時々、各地の神話・伝説や民話の中に、ふっと絵にしてみたいくなる情景が浮かぶと、急いでパソコンに向かうのです。新作にもご期待ください。

さて、今年は、待望のヨーロッパ日食の年ですね。以前は、「パリ日食」と呼んでいて、皆パリへ行くのだろうと思っていましたら、むしろ条件の良いドイツや、遺跡が多くてしかも晴天率の高いトルコへの希望者が多いようです。遠征される方、うまく写真やビデオが撮れましたらぜひ分けてください。

デジタルビデオなどに加工して、「マルチメディア電子紙芝居」としてまとめたいと思っています。

日食観測に行かない(行けない)私は、条件の良いペルセ流星群をビデオ観測して憂さを晴らしましょう。

1900年代最後の年、1999年を迎え、いろいろな思い出を残したいと考えている貴方、今年こそ思いっきり天体観測・観望を楽しんで、その成果をぜひ県民天文台に持ち寄ってください。楽しみにして、来台をお待ちしています。



1998年11月17日から18日かけての夜。もしかしたら流星雨が見られるかと期待されたしし座流星群は、極大のピークが予報時刻よりはやく訪れ、日本ではHR60程度の平凡な「大出現」で終わった...

おりしも日本列島ははじめての本格的な冬型の気圧配置になり、この季節日本海側の気候になる熊本県民天文台も悪天候に泣かされた。

Leonids

しし座流星群の夜 '98

高田祐一

ここに紹介するのは、悪天候にもめげず、流星雨が現れることをひたすら信じて行動した熊本県民天文台の仲間の記録である。

第一部 一般公開の夜

宵の空は、雨はやんだものの、まだ雲が多かった。しかし、わずかに顔を覗かせる晴れ間は、今夜の期待を膨らませるには十分であった... 「じょうなんフリーウェー、みぎてには一、びしょーねんしゅぞーう、ひだりには、あらーきさかや...このみちは、天文台へとつづく...」とユーミンの替え歌を歌いながら天文台に18時00分きっかりに着くと、すでにNHKの取材班が来ているらしく、なんかやたらと、灯りがともされていた。この時、健康管理のためにつけている万歩計を見ると6500を指していた。朝から今まで歩いた歩数である。観測室では中尾のびた君、徳尾君が緊張の面もちでリハーサルを繰り返していた。階段ではうら若き女性キャスター、高嶋さんが「...32年ぶりに大出現を見せると予想されている、しし座流星群は...」と、えらく難しいことを一生懸命復唱している。下の部屋では、艶島台長がプロジェクターのスタンバイを終えている。横には、しし座にある輻射点時間が時間とともに昇ってくるボードがある。丁寧にかけられているボードは、さも台長が用意したように見えるが、実はNHKスタッフが作ってきたものである。

学生がもし遅れたら自分がテレビの前でしゃべる羽目になると覚悟を決めていた私は、ついでに家族に今日NHKのテレビに出るからね、と吹聴してきた私は、「自分は、どこにいれば良いんですか？」と尋ねると、艶島さんは「どっか、そのへん、カメラにはいらんところに居て...」と指示する。

18時19分、NHK熊本ローカル番組「ひのくにワイド」が始まる。



生中継は、あ—————っという間に無事終了。スタッフともども緊張感が薄れる。

「はい、電話回線戻して～」中継の間は切っていた電話を元に戻した、とたんに、ベルが鳴った。艶島さんが対応する「はい、天文台です。・・・そうです、今日の深夜ごろから見えだします・・・いや、午前4時によく見えるというのは、あくまで予報であって・・・そうです、ここ天文台は今夜10時まで、一般公開をやります・・・」、受話器を置いてくたびれたように言う。「いや、ずーっとこんな調子で問い合わせがきているんだよ」また電話が鳴った。「はい、天文台です・・・」まったく休む暇がない。

コレは電話番号が大変だと感じた私は、ホワイトボードに、まず「今日の努力目標」と書いて、続いて、「電話番号は公平に」と書きこんだ。そして、「電話問い合わせ計数観測用紙」を作った。

次の電話は自分がでた。「・・・はい、天文台は午後10時までです。・・・そうです・・・その後は、まわりの塚原古墳公園をつかって、勝手にみてもらふことになります。」「勝手に”じゃない”自由に”だ。」すかさず、艶島さんの訂正が入る。

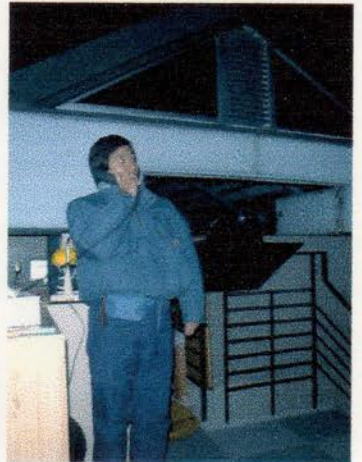
高嶋キャスターは、個人的にまた来る約束を取りつけ、「私、化粧落とすと、誰かわからなくなってしまうので、わかるように同じ服装でまた来ますね」と言い残してスタッフともども去っていかれた。

19時になると、お客さんがわらわらとつめかけてくる。しかし運営委員は少ない。ほとんどいない。自分は、観測室にて望遠鏡で星を見せて、艶島さんは下で、流星群の電子紙芝居をやった。最初、木星も土星も雲の中で、見せるのに苦労していたが、空はだんだん良くなってきて、どっちか片一方は出ている状態になってきた。すごく期待を持たせる展開となってきた。

第二部 しし座流星群の夜 熊本県民天文台

22時40分には、一般公開も終わった。一般公開が終わったころ、ぞくぞく人が集まってきた。小林J氏が来た。松本さんが久しぶり来た。立川さんも来たが、清和高原天文台と連絡をとってその後、どこかに消えた。桑岡さんがお好み焼きの差し入れをもって来た。中尾T君が来た。中島先生は、飽田公民館で観望会をやった後、来た。

「どれどれ」一仕事した艶島さんは、おととい、いただいたどら焼きを食べる。「今日の晩飯はこれだけだ～」というので、おこのみ焼きをレンジでチンして2人で食べた。



一方、観測室では小林J氏が、WEBページの気象衛星ひまわりの最新の画像を見ながら、これからの雲の予想をしていた。熊本では、一般公開中晴れていた空も、また雲が多くなってきている。これから冬型の気圧配置になり熊本では雲が多くなり、反対に太平洋側は良くなると判断したようだ。「よし、宮崎だ」「だれか、宮崎に行く人はいないか!!」この呼びかけに、急遽5人の決死の観測隊が組織された。23時00分、これまた臨時の壮行会をひらき、観測の成功と5人の無事を祈って全員の万歳三唱で送り出す。



送り出したあと、天文台残留組は観測の準備をはじめる。

熊大天研の学生の半分は観測条件のよいところをねらって阿蘇・産山方面にいているらしく、天文台には6人程きている。古墳公園の一角にこたつを用意する。若者達は、1晩ここですぐすのである。電源は、天文台玄関わきのコンセントから電源リールを中継中継してひっぱっている。あんまり強く引っ張っているの、玄関前はコードが宙に浮いて危ない。電源コードはテンションが高いが、学生らのテンションは雲ばかりの空であがりようがない。



高田のほうは、40cm望遠鏡に同架して、I. I. (イメージ・インテンシファイア)で流星のビデオ撮影にいどむ。ついでに、観測室にこたつを設置する。しき布団の下には銀マットを敷く。防寒(望観?)対策はこれが必要にして十分である。

設置したばかりのこたつに桑岡さんと入って空を眺めていた。観測・観望の準備はできたが、空は雲が多くなってきてダメである。

何時ごろかはっきりしないが、福岡の青少年科学館から電話がかかってきた。向こうは2000人ほど集まっているそうである。

25時をすぎたころ、高嶋さんが訪ねてこられた。観測室に案内する。



その後、テレビ熊本取材班から電話が入る。天文台がどこにあるかわからないという内容だった。場所を電話で教え、駐車場まで、迎えに行く。

そのときまでは駐車場にいくとすぐわかるだろうと考えていたのだが、一步天文台をでて公園に入るとギョっとした。あたり一面、人、人、人がきているのである。ある者は寝ころんで、あるものは腰掛けしている。駐車場も車でいっぱいだった。呼びかけて、やっと取材班を見つけた。聞くと、まだ天文台が藤山にあるものと思っていたそうである。

取材班を観測室にあげ、ビデオの出力を取材班のデッキにわけてあげる。でもこんな天気だから、流星が映るかどうか分かりませんよと、念をおす。

ところが、なんか空が晴れだした。晴れだしたといっても、雲9に星空1である。雲の間隙をぬって流星がとびはじめた。どうも、しし群でないやつも混じっているようである。流星が流れるたびに、観測室の歓声とともに、公園からの歓声も聞こえてくる。

それでも、高田はこの晩4個ほどしかみれなかった。

一方そのころ、九州大学の山岡均先生が、誰かおらんかと天文台の玄関まできていたそうだが、「なんだか忙しそうだった」のでそのまま帰っていかれた。

もう空は雲で完全に覆われている。その後、退屈のあまりうつらうつらと30分ほど眠っていたようである。

相変わらず空は曇天である。29時近くまで粘っていたが、もうそろそろ薄明がはじまる頃になって、あきらめて撤収にかかった。学生さんもこたつを引き払って集まっていた。お客さんからもらった。包みを開けると、にぎりすしが詰まっていた。「おー、すしだあ」欠食児童たちは群がってむさぼるように食べる。よっぽどおなかやすいていたようだ。



朝のNHKテレビで流星群の報道を見ていた。この頃には、もうみんな帰ってしまっていた。塚原公園ももう誰かがひきあげていた。すでに朝の散歩に来ている人が見受けられる。

今日はこれから東京出張。9時に飛行機に乗らなきゃいけない。まだ時間があるので、バットンバーデンの湯でさっぱりしてから行こう。そう思って、車に乗り込んだ。健康管理のためにつけている万歩計を見ると、13200を指していた。一晩で天文台で、6700歩、歩いた計算になる。

予告 まだまだ終わらないしし座流星群、来年の記事、

「しし座流星群の夜`99」

にこうご期待!!

すごいぞしし座大流星群

中尾 富作

17日昼間わくわくしながら情報集める。とても仕事にならない。昼の情報では、もう流れている、たくさん飛んでるーの話だった。げっ・・・やっぱり早まったのか！！何のために今まで準備してきたのか！！

この日のために今まで着々と準備をしてきたのに！！そう、7年前の日食以来一回も使わず大事に？収納？していたピクセンのSPポラリス。（あー懐かしい）SPポラリスを部屋から取り出すまで、大掃除から始まり、丸一日かかって取り出したあの苦勞・・・。

（時は2週間前へ戻る）

夕方になり部屋も少し広くなり、やっとSPポラリス取り出し成功。しかし、モーターは動くのか！！錆くってないか！！次々に不安材料が出てくる。そんな不安を吹き飛ばすようにSPポラリスはきれいだった。ごめんよー、こんなところに独りぼっち・・・なーんて感傷に浸る間もなくモーターチェック！！これまたオールOK。絶好調じゃー。早速SPポラリスをポタ赤に組み替え。マルチプレートを取り付け、自由雲台を載せ、まずは一つ出来上がり。その後電池を買いにふらふらとさまよう。懐中電灯用とポタ赤用のやつだ。そして次の休み、早くからプラネットタウンに行く。しし座流星の話で盛り上がる。ふと横にカイロ用の灰が・・・私が持っている灰は15年物。湿気きてたら・・・結局買う。もうこれだけ準備したら怖い物なしだー。

（再び17日へ）

うー、イライライライラいらいらいらいら。仕事が忙しい。夕方、再度あちこちに電話すると、天気があまり良くないらしい。晴れたところを探すと、大分や宮崎が良いとのこと。うー、仕事が終わらん。けっきょく仕事終わったのが21時。外は曇り・・・。急いで家に帰り荷物積み込み、当初の予定地をキャンセルし天文台へ、どーせ曇りなら天文台のほうがみんな集まってるし・・・と、車が入られん。天文台と塚原古墳は人でいっぱいだった。大駐車場になんとか車を入れ、懐中電灯はっと、あれ、あ～忘れたー。まあ、いいや。天文台のを借りよう。と、天文台へ、

みんなから、今頃来て遅かもん、人が多くて大変だったんだけんねー。と言われる。今まで遊んでたんじゃないのにー（TT）。そのまま居ると、何言われるかわからんので二階へ上がる。N氏へ、「準備はバッチリだったのに、懐

中電灯だけ忘れた」と言う、「日頃しもせん準備ばすっけん曇ったじゃなかね。ほう、懐中電灯忘れた分だけ晴れ間のでとってい」またまた言われる(TT)可哀相な私・・・うんにゃ、負けらん。ねえどっか晴れたところ、行きましようよ。と言うと、即宮崎は延岡行きが決まる。げっ、行ったこつなかばい・・・まあ後ろからついて行けばよかる？

ところが、いや、甘かった。砥用から矢部、清和から高千穂、日之影町をびゅんびゅん行く行く。ちょっとまったー。みなさんは普通車。私の車は550ccの軽(しかもNAエンジン)です。山道登らんで、下りカーブは踏ん張り利かん。あースッスリップ、なのに更に後ろから33ナンバーの車が煽ってくる。追い越したければ行きなさいよー、とぶつぶつ。こういう時は楽しいことを考えて、あー高千穂(そう、ちょうど高千穂の真ん中走っていたのさ)昼間ゆっくり来れば、紅葉がきれいだろうなー・・・、でも今は夜。景色なんて見えない。電光標識ぐらいならみえるが・・・えっ横風注意の電飾・・・えっ・・・と橋を渡りかけたとたん車が勝手に右へ、おいおい。洒落にならんで。うー全然楽しくない。運転中も顔が(TT)と泣いていた私です。

現地に着くと。おおー \ (^ ^) / 雲は多少流れているものの、空が暗い。延岡の約20km手前でしたが、おー空がきれい。と、その時大きい明るい大流星。空全体が光りました。いやーこれだけでも来たかいがありました。よく見ると、小さいのもぼちぼち流れているじゃありませんか。早速カメラのセットです。全天カメラ、吸引装置も取り付け、露よけカイロもバッチリ。もう一台は固定撮影で、オリオンと冬の大三角へ。それぞれ10分の露出。カメラと時計のにらめっこをしてもしょうがないので、上もしっかり見てました。いやービュンビュンっては飛びませんでしたが、私がカメラ向けている方向以外に、ぼちぼちと、飛ぶんですねえ。びいゅーん、ってな感じで。見えるのは嬉しいのですが、オリオン座の上とか、おお熊座を流れたりとか、ちーっともカメラの前を飛んでくれません。もう目が(ー)です。しかも寒い。むちゃくちゃ寒い。寒いうえに風が強い。こっ凍る。写真のほうはコンスタントに撮影。果たしてちゃんと撮れているのか!! 現像するまでのお楽しみです。AM 4:00過ぎると雲が多くなり、流星も見えなくなった。撤収の準備開始。機材の冷たいこと。あーさらにひえひえ～。

熊本出発時にT氏「朝方、宮崎で温泉にでも入って、ゆっくり帰ってこー」という話が出ていたのを思い出した。暖かいだろうなー。ん? 今から撤収? じゃあ温泉は? さっ寒い、ちえ、温泉は諦めて車へ。4:30熊本へ向けて出発。5:00を過ぎたころヒーターが効いてやっと温もってきた。ここまでくれば

お決まりのコース、睡魔君の御登場です、危ない危ない。安全？運転で天文台へ帰り着いたのが6：30。ほーっーと一息。

天文台で早朝のニュースを見ました。もうしし座流星群の話が出ています。おー某NHKのハイビジョン撮影成功！！すごい。みんな眠そうな顔をしながらテレビをボー。「写真こんな撮れとったらなー」と、何処からともなくプレッシャーの声……。いつまでもテレビを見ていてもしょうがないので、市内の写真屋さんへ。出来上がるまでの時間がすっごく長い。

現像結果で、確認出来たのはこの一枚でした。(表紙写真)薄雲での撮影と、流星があまり明るくなかったので、ちょっと見栄えがよくありませんが、勘弁して下さい。

撮影データ

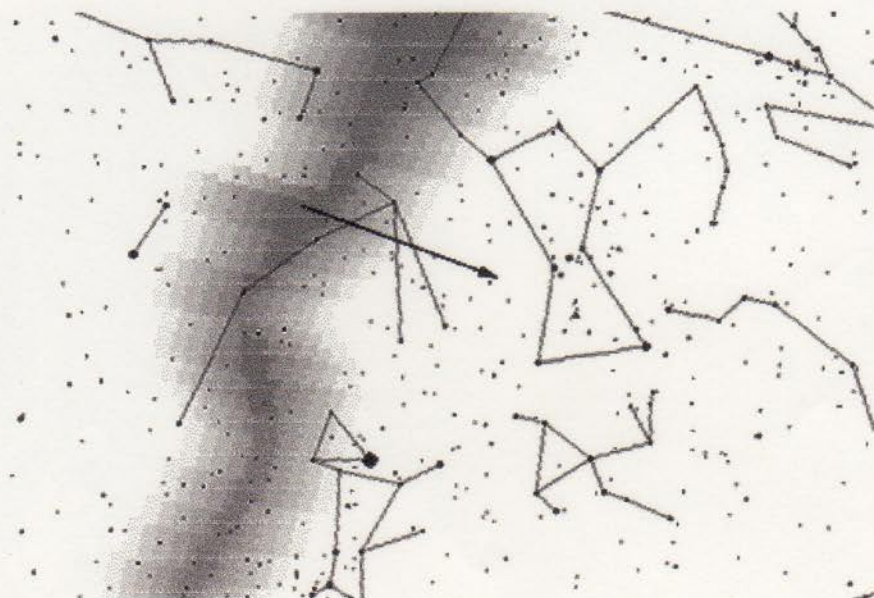
11月18日

AM3：00

露出 10分

その後、爆睡したのはいうまでもありません。

(^^)



矢印が流星です
来年に期待？し
ませう。

COMET PAGE

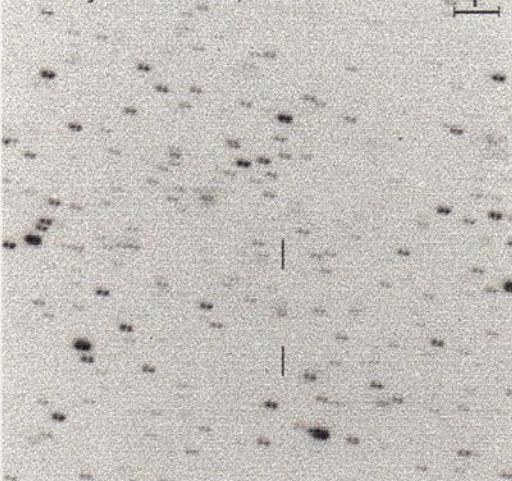
Nov. 1998

by Porco Nisse (KCAO)

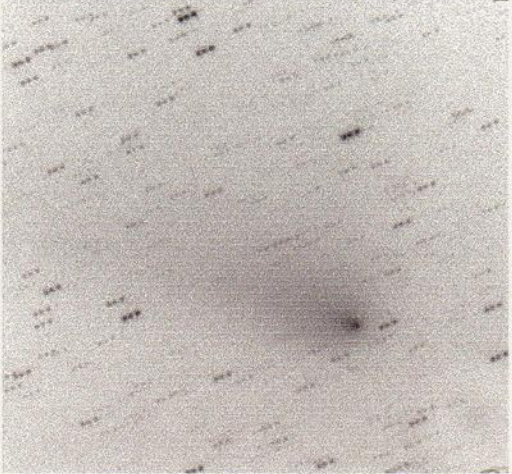
このページは、1998年11月に観測した彗星の紹介です。

11月になって、やっと通常の天候になってきたようです。でも、しし座流星群は駄目でした……先のないおじさん観測隊は宮崎県まで出かけて見ることはできましたが、KCAOにおいては危なかったことでしょう。それにしても、あの55Pのどこにダストがあったのでしょうか？彗星とは、つくづく不思議な天体と思います。

4P/Faye Nov. 10, 1998



21P/Giacobini-Zinner Nov. 23, 1998



ようやく視界に入ってきた C/1998 P1

☆ 4P/Faye

来年5月に近日点を通過するこの星が南西の空で写るようになりました。

☆ 21P/Giacobini-Zinner

今月に近日点を通過しました。南西の空低く観測は難しい星ですが、立派なほうき星となりました。何度かKCAOの41cmで観望してもらいましたが、初めて彗星を見る人にはよく分からないというのが感想でした。

☆ 52P/Harrington-Abell

この星は、異常な状態で回帰しています。光度は暗くなる気配をみせません。来年1月の近日点を通過をどのように迎えるのか興味が持たれます。

☆ 65P/Gunn

離心率の小さい軌道のこの星は条件さえ良ければいつでも観測できます。小さな姿が映りました。

☆ 74P/Smirnova-Chernykh

この星も条件さえ良ければ観測可能な星ですが、少し明るくなっていました。

☆ 88P/Howell

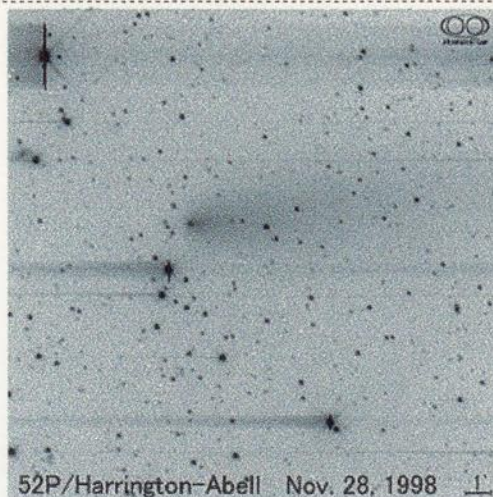
すでに近日点を通過した星ですが、夏の名残の空で明るくなっています。

☆ 93P/Lovas 1

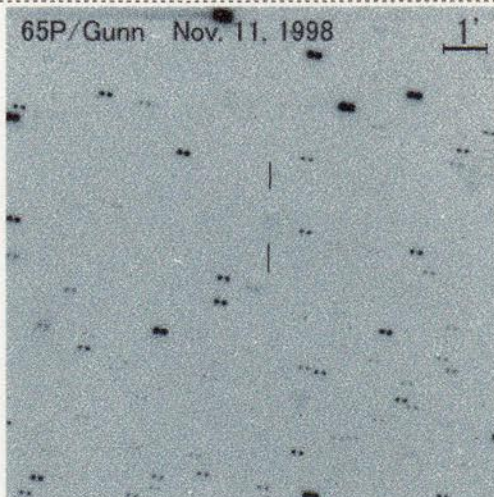
この星も近日点を通過しました。小さいけれど、よくまとまった姿で結構明るくなっています。

☆ P/1997 BA6 (Spacewatch)

来年11月に近日点を通過するころは、日本からは観測が困難なこの星を再びとらえました。すでに赤緯が-30度以下となっています。小さいけれどはっきりした姿を見せていました。



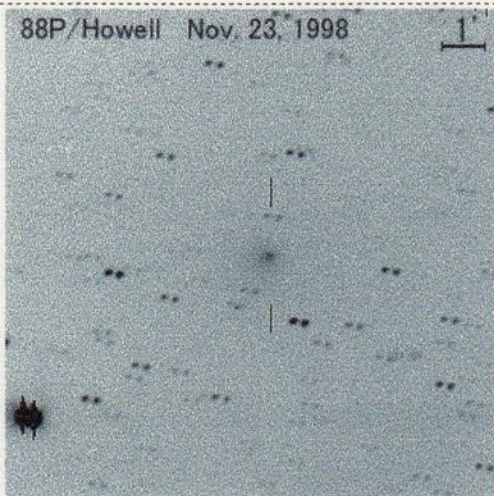
52P/Harrington-Abell Nov. 28, 1998 1'



65P/Gunn Nov. 11, 1998 1'



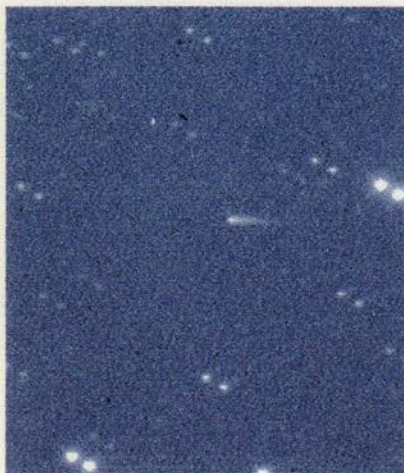
74P/Smirnova-Chernykh Nov. 23, 1998 1'



88P/Howell Nov. 23, 1998 1'

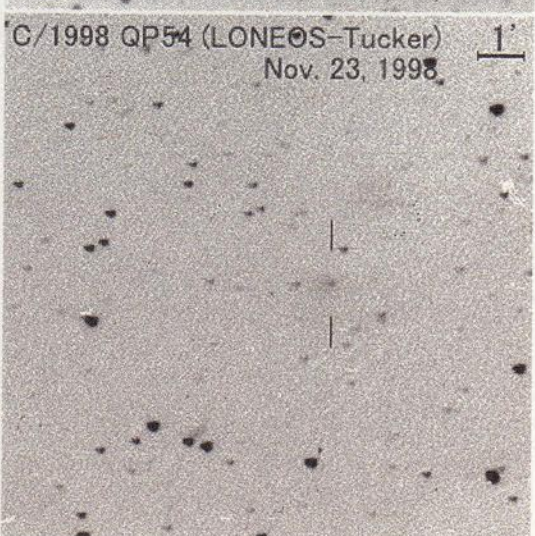
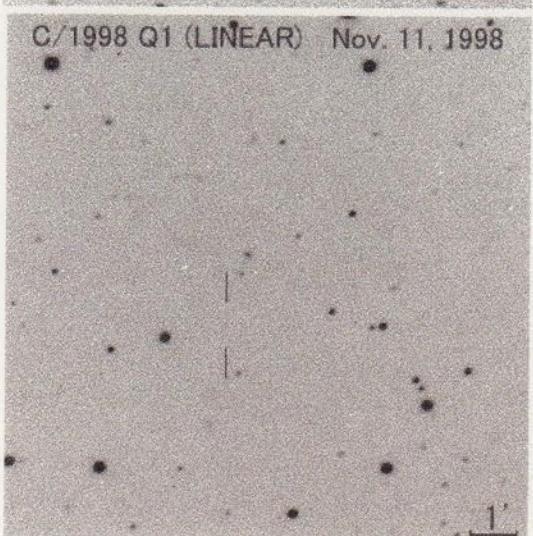
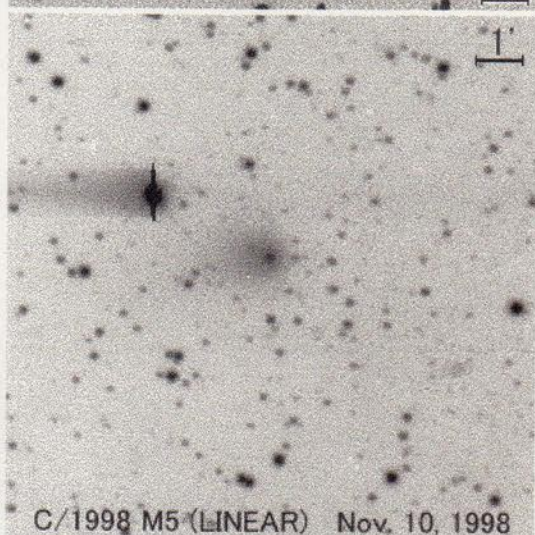
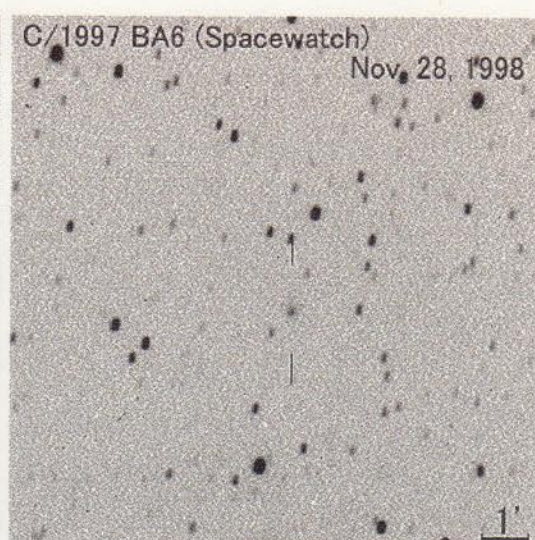
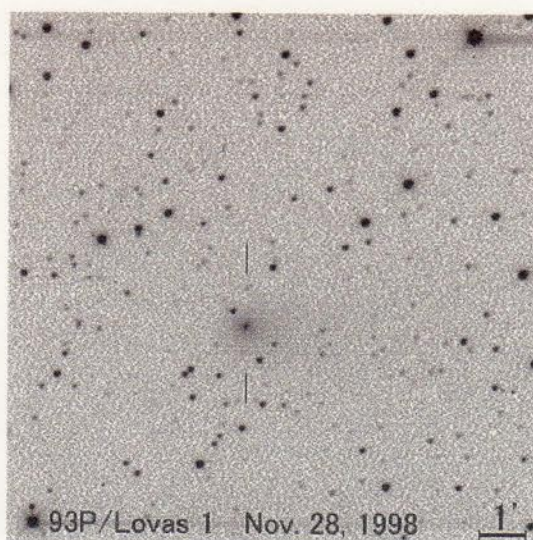
今月の星

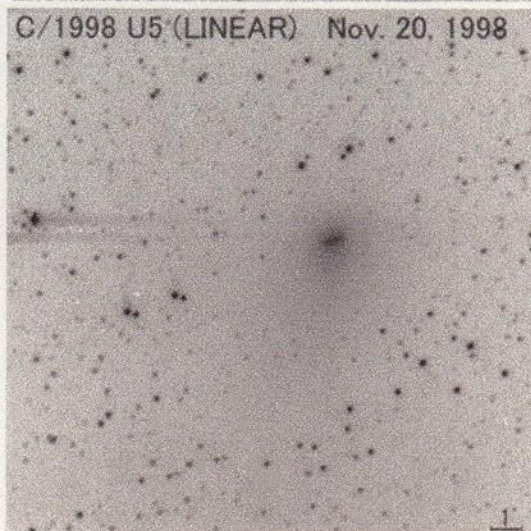
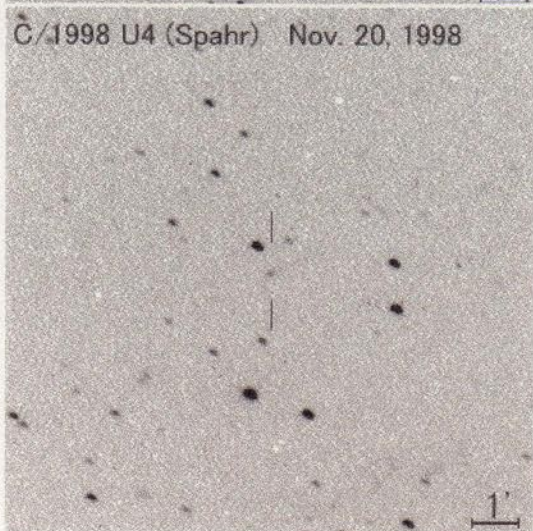
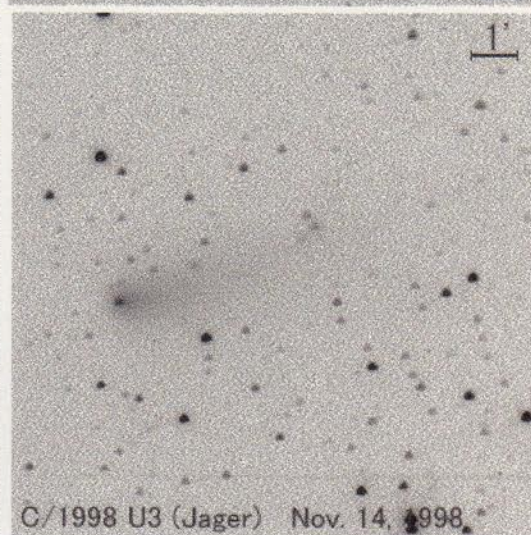
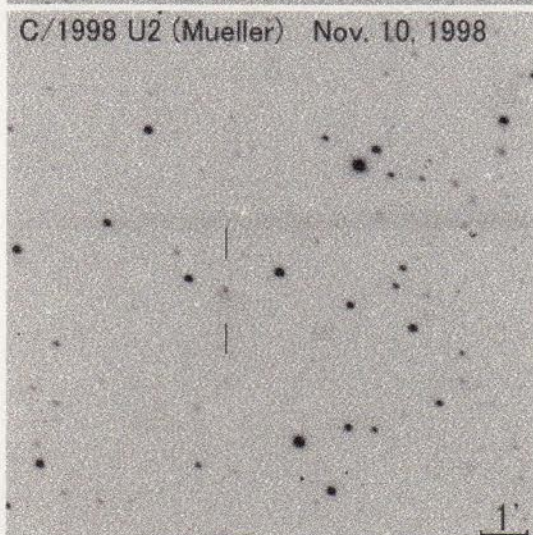
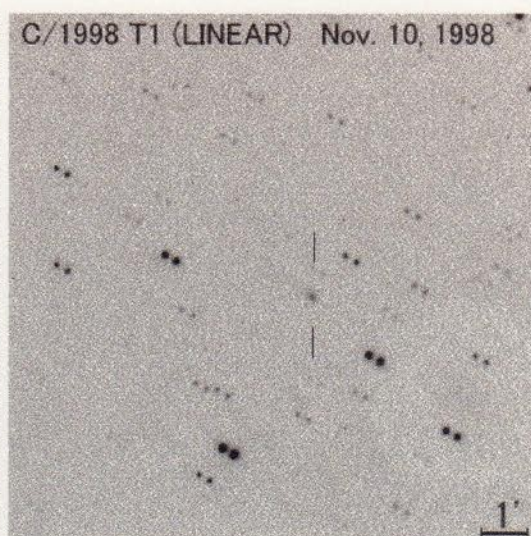
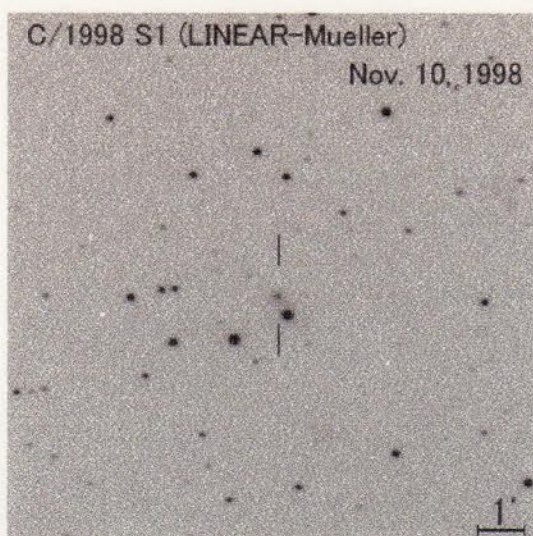
変だぞ、この彗星はおかしい！ 再び C/1998 K5 (LINEAR) について

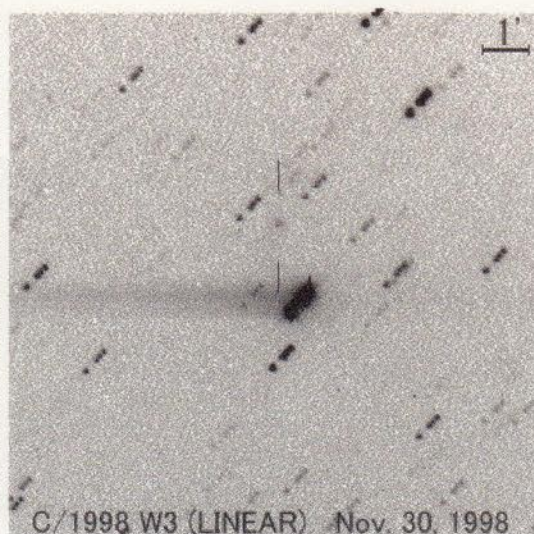
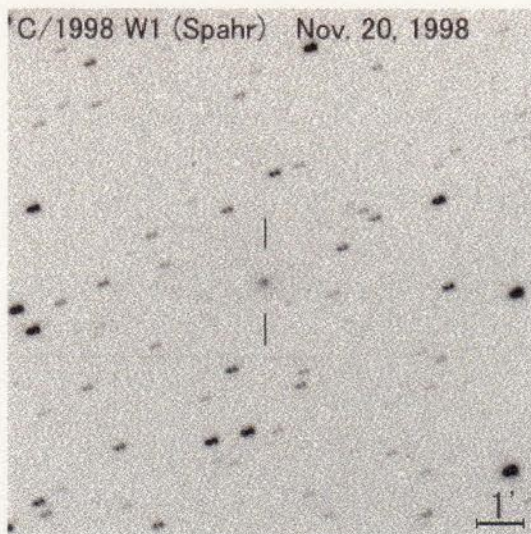


この星は、11月に衝になり尾の方向が西から東に向きが変化すると思っていたのですが、実際は西向きのみでした。

考えられることはこの星の尾が重いダストであることですが、それにしても本当かなという感じです。







LINEAR comets: C/1998 M2, C/1998 M5, C/1998 Q1, C/1998 T1, C/1998 U5

リンカーン研究所の地球接近天体の掃天作業から次々と新彗星が発見されています。これらのいくつかは、その光度変化から考えていずれ眼視掃天で発見されたであろう彗星も含まれています。自動掃天でこれだけ根こそぎさらわれてしまう今は、眼視掃天には冬の時代の訪れといえるかもしれません。

C/1998 P1 (Williams) 発見以来ずっと南天にあったこの星がやっと日本で見えるようになりました。

P/1998 QP54 (LONEOS-Tucker) 近日点を先月通過したところで、今が見頃の星ですが光度ガねえ。

P/1998 S1 (LINEAR-Mueller) この星も近日点を通過したばかりです。

P/1998 U2 (Mueller) 前記2彗星と同じく新しい短周期彗星ですが、この類の星はいくつあるのでしょうか。

P/1998 U3 (Jager) 52Pの近くで似たような姿を見せています。近日点通過は来年3月です。

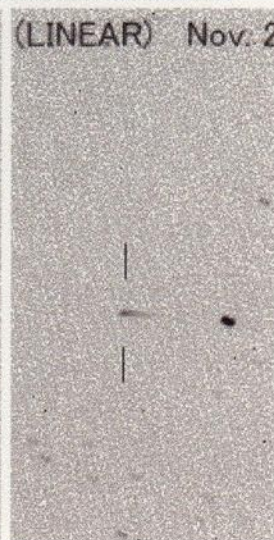
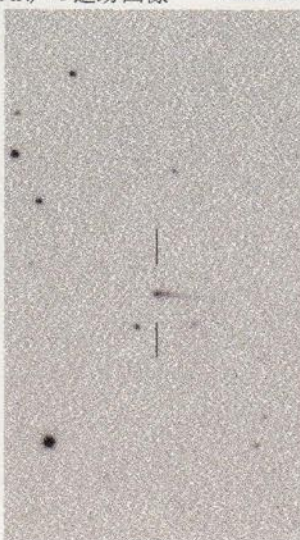
P/1998 U4 (Spahr) 小さいくせに細い尾が写ります。近日点通過はこの星も来年3月です。

P/1998 W1 (Spahr) U4と同じく41cmシュミットによるカタリナ・スカイ・サーベイ中に発見された☆です。

C/1998 W3 (LINEAR) 滑り込みセーフ、今号に間に合いました。詳しくは次号で。

なお、C/1998 W2は月に近く撮像できませんでしたので、これも次号で紹介しましょう。

***** ☆ C/1998 K5 (LINEAR) の追跡画像 *****



98/11/20

98/11/23

98/11/26

98/11/28

11月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率日 11/30日=36.7% 一般来台者数281名 会員来台者50名

日付	天気	来客数	担当運営	記事
1(日)	晴れのち曇り	6名 鹿本家3名を含む	艶島	月,木星,土星,ベガ,アンドロメダγ
7(土)	曇時々晴れ	0名	松野	だれもこない。木星はみえるけど・・・
8(日)	晴	7名	艶島,小林m,甲斐	木星,土星,ジャコビニ彗星 山口,小林J アストロスケールとステラナビを接続しようとしたがうまくいかなかった。まだ原因は不明!(艶島)
12(木)	晴	小林J氏寄贈の“大型PC”とアストロスケールを接続するインターフェース・ケーブルが完成!!本日,接続試運転に成功しました。WIN98上のステラナビゲータを使い,望遠鏡コントロール機能で望遠鏡を目的の天体へと「導いて」くれます。 アストロスケールへの赤経,赤緯のセットとテレスコープ・イーストかウエストの設定に注意が必要ですが,(いったん設定してしまうと)快適です。 この後,学生さんが写真撮影にくるそうです。(艶島) ★写真撮影にきました。ステラナビゲータを使いましたけどちょっと?でした。 今日はお月さんがとーてもきれい。おかげで月だけで36枚のフィルム1本を使っちゃいました。(一人で) 明日も写真をとりに来るのかな?ただいま4:30AM,あと4時間ちょっとで授業が始まる・・・(中尾のびた)		
14(土)	快晴	32名多かった	艶島,高田,中尾のびた	木星,土星,アルビレオ,M31 TALKABOUT 艶島,中島,小林J,小林M,松野,甲斐,立川,長谷,安達,高田,中尾のびた 11/17-18 しし座流星群の準備について 他 ステラナビゲータによる望遠鏡コントロール 小林J ジャコビニ彗星観測
15(日)	晴	10名	艶島,小林M,甲斐,木村(ひさしぶり)	木星・土星・M31・アンドロメダγ・天王星

				どらやき多数、ミカンの差し入れ有り、木村君からお酒のおみやげ 中尾のびた、高田 ・小惑星による恒星のえんぺい観測 木村君がVWの新車を買ったそうです。
17(火)		105名	艶島、中島、小林J、立川、高田、中尾T	しし座流星群の夜 木星、土星 午後9時以降曇りの為、ほとんど観測不能 桑岡たつみや店長、椿、田中、河田、富松、NHK高嶋+1、TKU4名 艶島、小林J、中島、中尾、松本、5人組は延岡の20km手前まで出張観測!! 01h30-02h40の間に60個異常、04h45m観測終了。全部で楽に100個以上のしし座流星群を観測、大成功でした(艶島) 飽田公民館講座 中島 50名 木星、土星
19(金)	はれ	3名	立川、長谷、小林J	木、土、M42、45アルビレオ(はせ)
22(月)	晴/曇	なし	艶島、小林m、甲斐	お客さんが来ないので男子バレー観戦になりました。(小林m) 小林J
28(土)	晴れ	6名	西嶋、小林J	土星、木星、月、アルビレオ、ベガ、カペラ、ペテルギウス、M42、カストル、すばる(双眼鏡)、シリウス けっこう半月が明るい。最後に北カップルは土星、木星、月と大感激でした。 中央公民館講座 50名 中島 木星、土星、月、アンドロメダ座のγ(中島)
29(日)	晴	6名	艶島	木星・月・土星 星座物語「アンドロメダ」 木星の衛星の出現と衛星の影が見栄大よろこび。双眼鏡で見る月が結構うけましたね! 「神力」いただきます!(艶島)

しし座流星群、熊本では曇りであまりみられませんでしたね。大分や宮崎では比較的晴れていたんだそうです。マスコミの力ってすごいですね。日頃星を見ない人達でも熊本県内走り回っていました。すこしでも星に興味をもって頂いた事は嬉しいのですが、残念な話がひとつ。人が沢山来たところでは、ゴミも沢山落ちていたそうです。空のちり、流星は綺麗ですが、地面のゴミは見るに耐えません。

☆ 1 月の天文現象 & 行事 ☆

- 1日(金) 元旦
- 2日(土) 満月(11:50)
- 4日(月) りゅう座ι流星群が極大
- 5日(火) しし座レグルスの食(22:32)
- 9日(土) 下弦(02:54) トークアバウト(20:00~)
- 11日(月) 火星が短矩(18:02 -0.5等) 月の距離が最遠(404827km)
- 15日(金) 土星が東矩(01:58 -0.5等 視直径40".9)
- 18日(月) 新月(00:46)
- 20日(水) 大寒
- 22日(金) 海王星が合(15:43 8.0等 視直径2".2)
- 25日(月) 上弦(04:15)
- 27日(水) 月の距離が最近(369252km)

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1999年1月号 通巻286号

発行所 熊本県民天文台事務局

〒861-4226 熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

ホームページ http://denouken.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO_TST.HTML